街路樹診断協会
会員アンケート

事業委員会

令和4年6月

アンケート方式：Googleフォームによるwebアンケート

アンケート実施期間：令和4年5月9日～5月31日

アンケート回収数：68件

以下、アンケート依頼文

このアンケートは、会員の皆様にとって当協会の活動がより実効性のある取り組みとなることを目指し、ご意見・ご意向をお伺いするものです。
全部で31問の質問があります。お忙しい中お手数をお掛けいたしますが、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

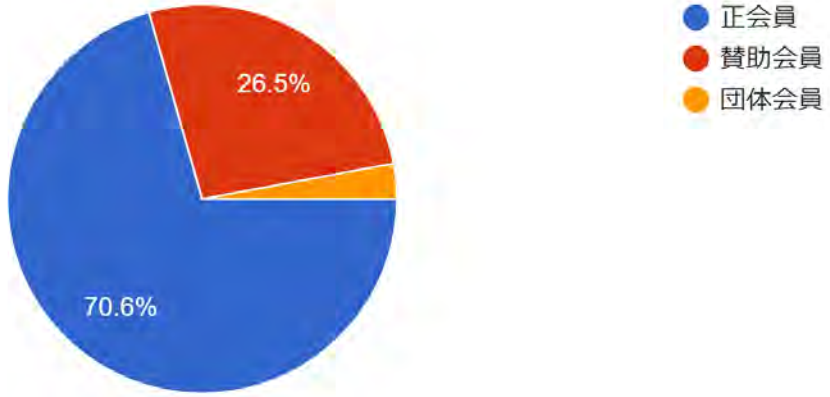
ご回答は
　所属する各組織を代表して1名
　（複数支部に所属されている組織におかれましては支部ごとに1名）、
ご送信くださいますよう、よろしくお願いいたします。

一般社団法人 街路樹診断協会　事業委員会

【組織について】

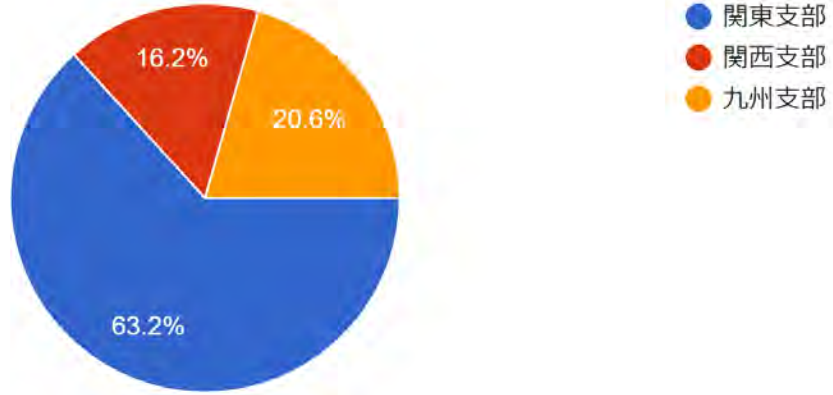
Q01.　会員の種別

68 件の回答



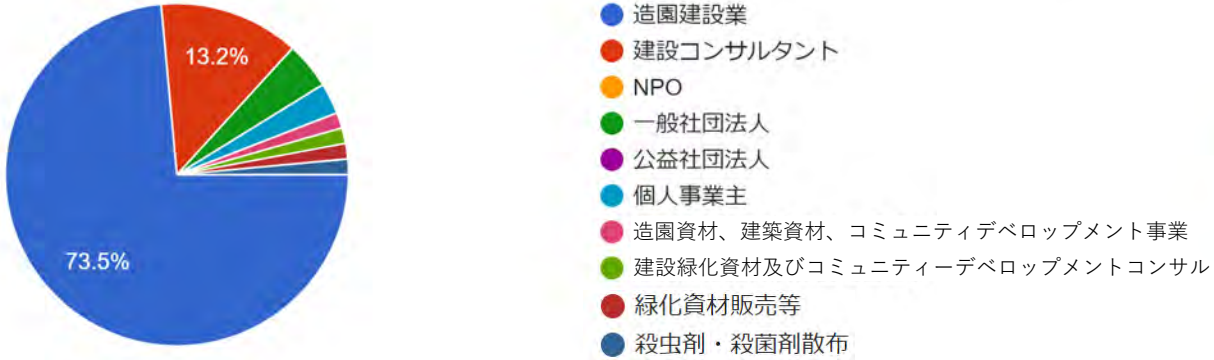
Q03.　所属の支部

68 件の回答



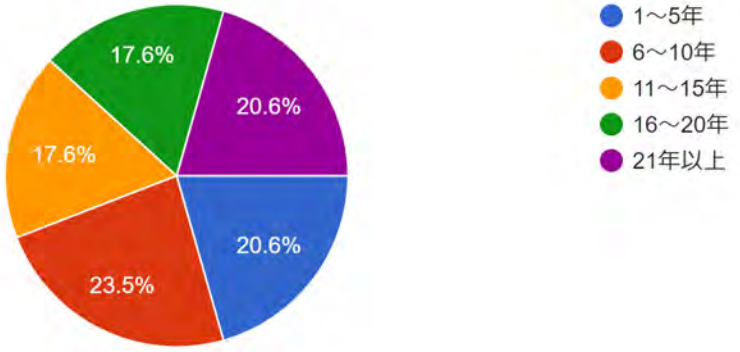
Q02.　所属

68 件の回答



Q04.　会員年数（おおよそで結構です）

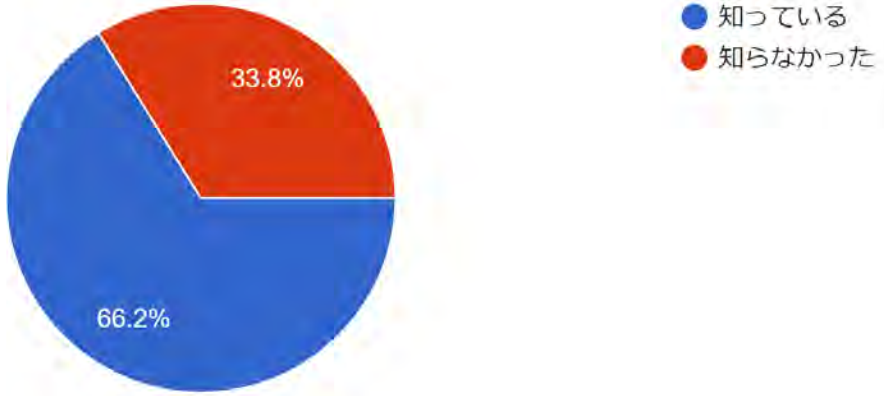
68 件の回答



【協会の認知度や情報発信について】

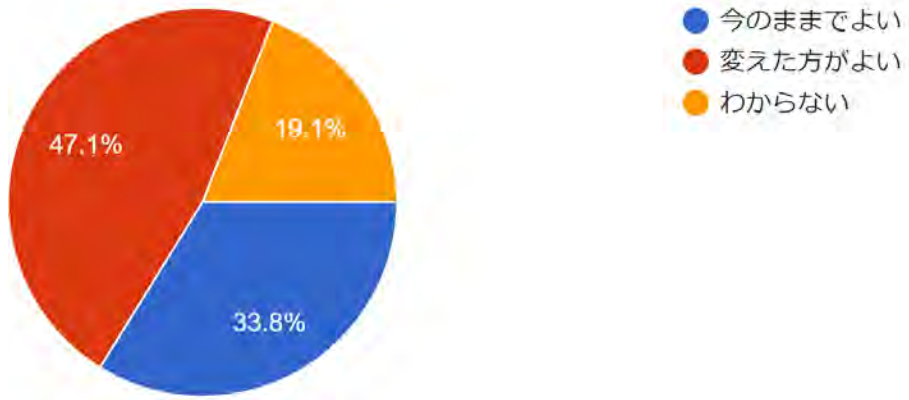
Q05.　協会の英名(Urban Tree Diagnosis Association, Japan)はご存知ですか。

68 件の回答



Q06.　協会の名前を「街路樹診断協会」から「都市樹木診断協会」に変更するという議論があります。そのことについて、ご意向をお聞かせください。

68 件の回答



Q07.　Q06でお答えになった理由をお聞かせください。 61 件の回答

「今のままでよい」に対する理由

1	都市樹木だと何をしているか分からないため
2	「街路樹診断協会」の日本語名が定着しているから
3	街路樹診断協会の名前が浸透していると思う
4	言いやすい。樹林等も含めることができる。
5	街路樹診断協会に所属していない樹木医の活動の場を残すため
6	世間一般の人には、街路樹と言った方が馴染みが良い。都市樹木というのは専門用語的でわかりにくい。
7	発注機関や業団体には固定観念ができているため。一般向けにも焦点を向けていくのであれば、再度議論する必要はあると考える。
8	名前が定着している。
9	協会事業の発展には協会名の扱いも重要と思います。「都市樹木診断協会」もとても良いネーミングだと思います。事業エリアを拡大解釈し易いメリットが有りますよね、現在の協会名の認知度は割と高いかなー、この辺りを良く議論した上での結論であれば変更もありかと思います。
10	既に認知された名前なので
11	都市樹木より街路樹という言葉の方がわかり易いから。
12	都市樹木より街路樹の方がわかりやすい。
13	都市樹木に変更するというのは、街路樹だけでなく公園や各施設内樹木等も含むということだと思いますが、逆に都市の樹木に限定されてしまうと勘違いしやすい。あっさりただの「樹木診断協会」がいいかもしれない。
14	一般に浸透しており、個人的になじみがあるから
15	変更する議論内容を知らないため
16	街路樹診断という文言になじみがあります。
17	もっとも需要のある分野において、わかりやすい
18	聞きなれているから
19	街路樹診断協会は発足からの経緯があるため、今更名変はしなくていいと思います
20	変えた方がよい理由がないため
21	知名度が高く分かりやすい
22	変更された名前が関係各方面に浸透するのに時間がかかると想像され、戸惑う人が多いのでは。
23	都市、という定義が曖昧であると感じました。街路樹の診断として特化することが、この協会のアイデンティティのように考えております。またこれから各地方自治体でも街路樹診断の広がりが見られる今、法人名の変更はせっかく浸透しつつある協会の存在感が薄れるとかんがえます。

「変えた方がよい」に対する理由

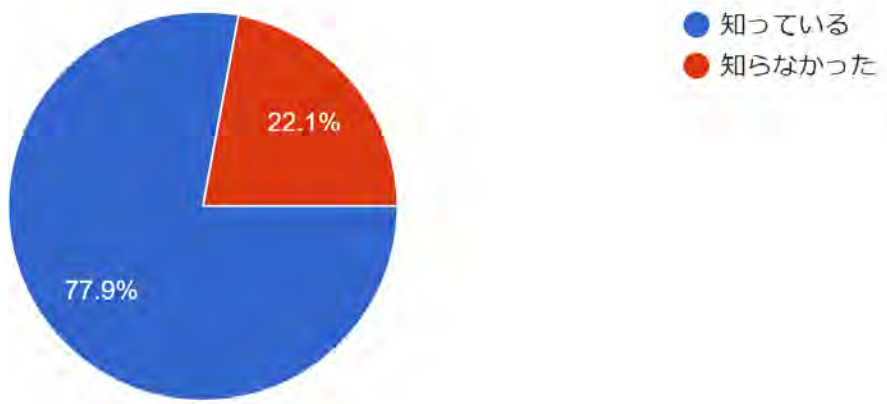
1	アーバンフォレスト戦略を踏まえた展開のため
2	公園の樹木などの診断も行っているため
3	公園や庭園、河川堤防など様々な樹木診断や調査のニーズが増えてきている事と、第三者的に見ると、街路樹というと範囲が限定されそうな感じがするため。
4	街路樹だけでないから
5	公園樹や保存樹木の診断が街路樹よりも多いから。
6	新しい名前の方が街路樹以外の都市樹木の診断にも幅が広がると思います。
7	街路樹以外の樹木も診断対象となる機会があるため
8	街路樹診断マニュアルは街路樹に限らず公園その他の公共空間で広く採り入れられており、すでに街路樹という概念から抜け出て実用化されている。この状況から「都市樹木診断協会」の方が、よりふさわしい名称と考える。
9	イメージとして街路樹に限定されてしまうから
10	街路樹だけでは偏った技術と感じるため。
11	街路樹のみを扱っている印象を持たれるので。
12	街路樹に限定しない方が良いと思う
13	対象が網羅的になる
14	街路樹からスタートしましたが、都市樹木全体の診断が増えてきているので
15	街路樹以外にも診断マニュアルがあった方がよいと思うので。
16	日造協の資格「街路樹診断士」の姉妹資格「緑地樹木剪定士」が来年新設されるように、「街路樹」と「その他の都市緑化樹木」とは、管理ポイントも留意事項（建築限界優先か長寿命化か）も違ってくる。そして、都市緑化樹木の中に街路樹を入れることはできるが、街路樹という名称をもって都市緑化樹木全般を示すことは少し無理がある。
17	取り扱う樹木が街路樹に限らないため、ただ「街診協」でもある程度理解を得ている
18	街路樹だけではなく、広い意味では都市樹木のほうが良い。
19	より幅広いニーズに対応するため。また実態に即した名前でもあるので。
20	名は体を表すから
21	街路樹のみに留まらず広く活動されているので、都市樹木のスペシャリストという位置づけを示した方がいいと思う
22	公園樹の診断が増えてきているので。
23	今後は街路のみならず公園や公開空地での診断に関わる事業も多くなると考えられるため
24	公共の施設（公園、学校ほか）において樹木診断の依頼が多くなっているが、「街路樹診断士が診断業務を行う事」の特記に疑問を持つ職員がいる。
25	都市全般の樹木を対象にするべきだから
26	診断領域が街路樹に留まらず緑地の樹木も対象となっているため

「わからない」に対する理由

1	街路樹だけでなく公園木なども対象とする意味では変えた方がいいが、都市樹木となると、別の意味で対象が限定されるように感じるため
2	関東で地域ではそれなりに「街路樹」関係者に知られた大きい存在であるため、名称変更した場合、それなりに機会逸失が懸念される。
3	替えたほうがいいのだが、すでに知名度が広がっているため、悩ましい。
4	街路樹にこだわる必要はないと思うが将来的には変える方が良いかもしれない
5	「都市樹木診断協会」という名称が活動上もっともふさわしいことは分かりますが、「都市樹木」という言葉では社会的認知、訴求力が弱いと思います。社会に浸透しやすい「樹木診断」という言葉に重点を置いた「樹木診断協会」か、都市樹木の未来像を目指し、その概念を社会に啓蒙する意味を込め「アーバンフォレスト協会」とするのが良いように感じます。
6	まだそんなにメジャーな名前ではないのら変えるのも有りかとも思う
7	診断対象の樹木が何処にあるか、都市に限るのか、その辺りがはっきりと分からない。
8	どちらの名称でも、事業を行うのに支障がないかと思われるため。但し英語表記と日本語表記の意味合いが違うかと思われます。
9	協会に対する知識が浅いため。。
10	都市樹木の名称の浸透度合いを考えると時期尚早な感があるため。
11	街路樹の方が世間の通りが良い反面、目指す方向性として都市樹木まで広げたほうが将来的に良い気もしますが、なんとも言えません
12	街路樹診断協会では街路樹に特化しているように見えますね。

Q08.　協会の新しいロゴマークはご存知ですか。

68 件の回答



(一社)
街路樹診断協会

Q09.　協会ホームページがリニューアルされました。その満足度についてお聞かせください。

68 件の回答

Q10.　協会ホームページへのご意見・ご要望をお聞かせください。25 件の回答

1	動画の充実
2	開くのに少し時間がかかるようになった。
3	リニューアルなどしたとき、又は定期的に、クリックすればいいアドレスを載せたメールを配信する。再度会員キーワードを送る。
4	とても見易いです。
5	情報の発信量と鮮度が重要
6	見やすい。
7	とても見やすいし、情報にもアクセスしやすいと思います。
8	クオリティーの高い診断と実績を
9	他会よりよいと思います。
10	イメージが良くなったと思う
11	ビジュアルもかっこよく、階層が複雑でなく巡回しやすい。
12	樹木診断や管理の際に多くの人がアクセスするコンテンツ、会員の疑問や書類作成を補助するコンテンツの充実。
13	以前に比べ情報量が増えかつ見やすくなった。
14	最新のお知らせが見やすい
15	リンク集等便利である。
16	特にありません。
17	特にありません
18	サイトトップに簡単な一般の方向けの案内を乗せてはどうか。弱った庭木の相談先を探して協会HPにたどり着くといった場合もあり得るので、個人での相談先として樹木医会へのリンクを用意するなどの工夫もあると良いと思う。
19	一般市民にも認知させる入口が欲しい。
20	見ときます
21	現在レジストグラフ所有者が多数いますが、作業はだれでも出来るとして 解析は慣れていないと無理に近いと思います。 解析の基準を一度研修したほうがいいと思います
22	特になし
23	今風のデザインでわかりやすく、見やすくなった
24	特にない
25	協会会員だけでなくとも閲覧できる情報を増やすことで、会員向け→国内外向けの組織へと変化していくきっかけになるのではと考えました。 いつも運営いただきましてありがとうございます。

Q11. ニュースレター「街診ニュース」について、満足度をお聞かせください。

68 件の回答

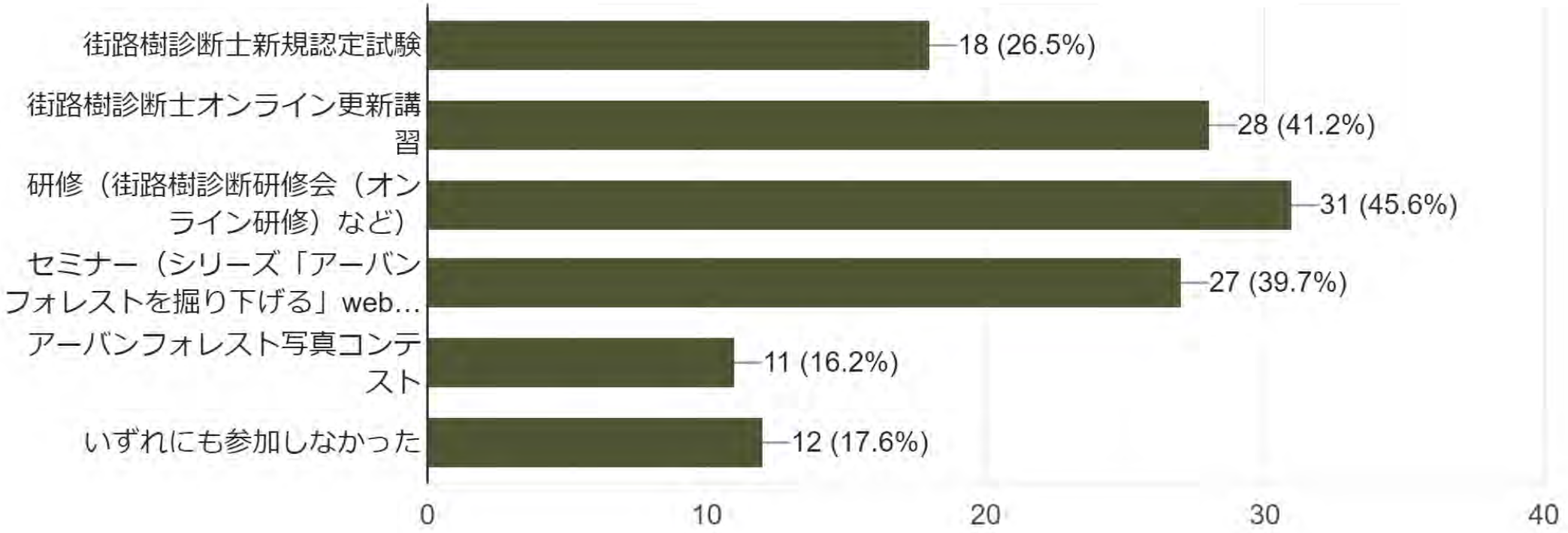
Q12. 「街診ニュース」へのご意見・ご要望をお聞かせください。23 件の回答

1	素晴らしいがこの内容を継続できるか心配
2	読み飛ばしてしまった箇所を改めて読むとスルメのように奥深い。
3	もう少しビジュアルに、
4	貴重な情報提供ありがとうございます。
5	特段の要望はありません
6	興味深い内容が多く楽しみにしています。
7	紙面が充実していて有意義
8	続けてください。
9	行政とかに提案できる、技術的専門的、海外の事例など記事が良いと思う。
10	すみません。まだしっかり読んでいません。
11	会員にむけて外部からの投稿も欲しいところ。
12	他会誌よりも内容が充実しており、ボリュームも多い。
13	この紙面品質で継続するのは大変かと思いますが宜しくお願いします。
14	情報の収集に役立つ
15	色々な視点があり面白く拝読させて戴いております。
16	いつも楽しく拝見させてもらってます。
17	各社へ紙媒体でも郵送してほしい
18	特にありません。
19	特になし
20	しばらくは、今のままでいいと思います。
21	特になし
22	作成にあたり色々とご苦労があるかと思いますが、情報源として毎号楽しみにしています
23	読まれる方は専門の情報を求めている方も多く、今、日本国内でどう言った事業が進んでいるのかの情報もいただけるとありがたいです。

【協会の活動について】

Q13.　この1年間（2021年（令和3年）4月～2022年（令和4年）3月）に参加した協会活動についてお聞かせください。（複数回答可）

68 件の回答



Q14.　協会主催の研修やセミナーに満足していますか。

68 件の回答

Q15.　協会主催の研修やセミナーへのご意見・ご要望をお聞かせください。

22 件の回答

1	スケジュール事前設定
2	根株診断を主体とした診断講習会の検討をお願いします。
3	CPDの発行が限られているので建設コンサルタンツ協会のCPDも発行してもらえると助かります。あるいは参加の証明書だけでも発行してもらえると参加者の方で別団体のCPDに登録できます。
4	アーバンフォレストは結構難しい
5	いち早くオンライン活用されていて感心しました。
6	リアルでの研修等が減っているのでオンラインでの研修を増やして欲しい
7	最先端の知見を持つ人が講師にきてくれるので大変刺激になります。また国際的な先進事例などを聞くと、世界の現状や日本のこれから、また都市部の目指すべき姿や方向性が見えて、大変勉強になります。
8	打診音等の具体的な技術研修を受けたい
9	続けてください。
10	すみません。まだ受講できていません。
11	アーバンフォレストと診断に関するセミナーの回数を重ねること。特化したセミナーの積み重ねによる信頼度や知名度の向上が、新たな展開の芽となる。
12	短時間のセミナーでよいので、回数をふやしてほしい。
13	特になし
14	診断技術のレベルアップや現地研修等を増やしていって欲しい。
15	全てを造園CPD、樹木医CPDの認定で開催して欲しい
16	診断スキル向上に寄与する個別のセミナーが継続的にあると良いと思います。
17	特にありません。
18	特になし
19	良いと思います。
20	特になし
21	オンラインセミナーでの開催はコロナ終息後も引き続きお願いしたいです
22	特にありません、満足しております

Q16.　街路樹診断士（新規認定試験・更新）講習が令和3年度はオンラインで行われましたが、オンラインで行われることについてどう思いますか。

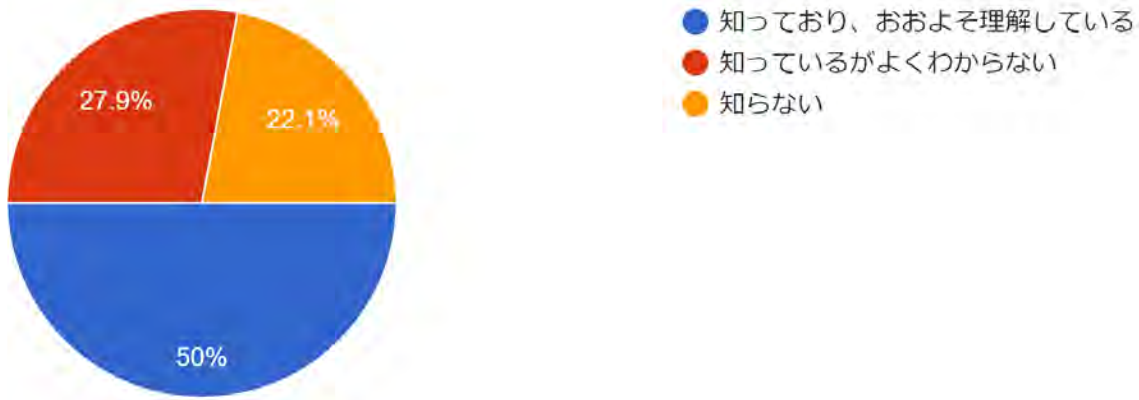
68 件の回答

Q17.　街路樹診断士（新規認定試験・更新）講習へのご意見・ご要望をお聞かせください。
27 件の回答

1	オンラインへの切り替えが素晴らしい
2	コロナ後は、オンライン併用でお願いできないか？
3	各支部において、実技部分がどのように行われているか、会内部での共有化が必要かもしれない。
4	オンラインではなくレポート提出したような記憶があります
5	時代が変わっていくことに、ついて行ってる
6	地方の方が交通費等が節約できます。これも会員サービスです。
7	未参加で判らない
8	（新規認定試験について） オンライン開催で地域的な条件が緩和され、受験へのハードルが下がったのは良いと思います。また支部で試験を行うことで、地域の環境特性を捉える観察力が測れるのはメリットだと思います。 ただ支部で試験、本部で採点だったため、全国統一のマニュアル的な採点に傾きやすく、上記メリットが薄れてしまうように感じました。また上記の都合上、試験と採点に地域的・時間的なラグが生まれ、受験者本来の能力を判断する即時性が失われてしまったように思います。
9	受験場に行く必要がなく、日時も受験者の都合で受けられるのが良い。
10	絶対に必要な実技は、現場で行う方が良いと思います。
11	今後もオンライン方針に賛成します。更なる充実をお願いいたします。
12	きびしくしてください。
13	継続教育を行いながら会員のスキルアップが必要。
14	実務講習（現場講習）の充実。診断士は現場実務の技量が問われる存在。
15	オンラインだと参加しやすい。特に地方会員は。
16	今後も可能な範囲でオンラインを続けてほしい
17	会員限定になるので門戸が狭い。街路樹診断士の認知を拡げるには、どうしたら良いのか？
18	更新講習に関してはスペシャリストとしての水準をきちんと維持するためリアルでの講習・実習の方が好ましいと思う。オンラインは流し見になってしまう可能性が大きい。
19	きめ細かなカリキュラムで良いと思います。
20	特にありません。
21	やはり実地での試験がいいかと思います。
22	実地研修を充実してもらいたい
23	現下の状況ではやむを得ないこと、遠方の方が参加しやすこと。 対面と併用されると、より良いと思います。
24	オンラインでの効果がどうだったのか。オン、オフでの診断士の成果の違いは？
25	コロナが収まったら会場での開催に戻していただきたい
26	更新講習はオンラインで良いかと思いますが、新規認定はどちらともいえません
27	実技はリアルで実施されましたが、参加者が非常に真剣に取り組まれており、リアル研修の重要性を改めて認識いたしました。

Q18.　協会が取り組むアーバンフォレスト戦略について、知っていますか。

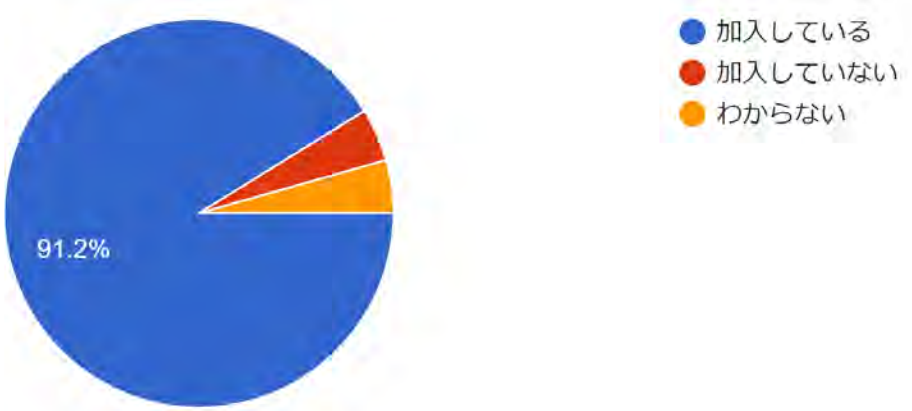
68 件の回答



Q19. アーバンフォレスト戦略を、広く社会に周知していくためのご提案やご要望があれば、お聞かせください。22 件の回答

1	緑の価値の市民との共有方法について検討すべきだ
2	他団体との協働、他所での取組みへの参画を進め、当団体（及び所属技術者）の公共での属性を示し、社会的な認知度を高める。
3	難しい
4	グリーンインフラの先にある考え方です。アフターコロナでの生活様式変化に対応する館得方と思います。
5	Q18で「知っており、おおよそ理解している」が選択できませんでした
6	まず、これまでのようにシンポジウム等を開催することで社会的認知を高め、同時に会員が正しい知識を持つこと。その上で、会員各位がその知識を生かし、それに伴った技術力をもって、地域社会に実例を増やしていくことが重要だと思います。
7	ZDGSの時代の流れにのり、公共的緑についてのニーズをいかに取り込めるかの方法論を行政や市民コミニティと成功例を題材に議論すべきだと思う。
8	冊子を作成し、拡げたいところに説明に回る
9	街路樹診断協会だけでなく造園業界のレベルアップが必須。
10	社会へ周知、馴染ませるには、教育現場等、若年層への働きかけが重要と感じます。
11	SDG s 、グリーンインフラ、脱炭素、など取り巻く環境は悪くない。地道に発信を繰り返す。また、海外の知見をもっと紹介する。
12	もっと宣伝活動をすべきかと。
13	PR活動やセミナー通じて拡げるしかない。
14	具体例を小出しに周知してゆく
15	特にありません。
16	特になし
17	環境への取り組みや社会貢献活動に興味のある企業を巻き込み、連携を促すためには、SDGsとの関連や事業者が取り組むメリットを整理して伝えられるパンフレットのようなものを電子配布できると良いのではないか。企業内で環境担当・SDGs担当者個人に興味を持ってもらえたとしても、その考えを企業の上層部まで及ぼすには、メリットを説明できるプレゼンのネタが必要であると考える。
18	特になし。
19	オンラインでの参加が出来るようになったため参加しやすくなった
20	特になし
21	これまで行っている活動を地道に続けるほかないかと思います
22	子供世代を巻き込んだイベントも開催し、樹木医や造園業の認知度をあげつつ、未来の専門家を増やす取り組みをしたいと考えています。

Q20.　街路樹診断事業者賠償責任保険の加入状況についてお聞かせください。
68 件の回答

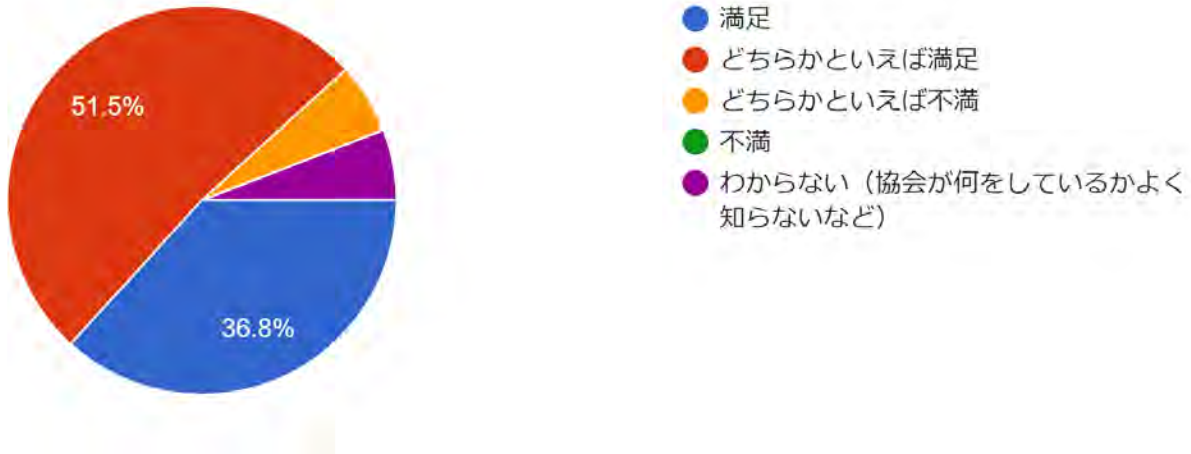


Q21.　街路樹診断事業者賠償責任保険に加入していない場合、その理由をお聞かせください。3 件の回答

1	安心の為。
2	現時点では必要ない
3	加入しておりますので、無記入です。

Q22.　協会の活動全般に満足していますか。

68 件の回答



Q23.　協会の活動全般へのご意見・ご要望をお聞かせください。

16 件の回答

1	頑張りましょう
2	委員会毎に決裁権を持たせて中堅の方が前向きに活動されています。この流れを是非繋げて頂きたいと思います。
3	特になし
4	他協会の活動には、現状の打開や改変そのものを目的とした活動が多いように感じるが、当協会の活動には、未来を見据えた目的があり、その実現のために現状を変えていくという正しいアプローチを感じます。
5	協会員の技術、ノウハウのクオリティーをもっとあげて他のものとの差別化を図る必要がある。
6	各部会が活発的に動いており、素晴らしい
7	役人にもっと強く意見してほしい。
8	若い世代の会員が積極的に参加する仕組み。AI、DX、ロボティクスなどの最新技術の業界導入。
9	地方での講習会開催。
10	会員数を伸ばすには、認知活動が必要です。どういう活動をされていますか？
11	遊具で事故があった時には公園施設業協会が調査を行っているように、都市樹木で倒木被害があったときは、診断協会で事故調査委員会を編成し即応体制をとって調査を行い、データを蓄積していくことが、診断技術の向上につながると思う。
12	特にありません。
13	街路診断協会の賛助会員として加盟しているが、特に仕事として優遇されていない。
14	なかなか参加できませんが大事な活動だと思っています
15	特になし
16	特にありません。満足しております。

【街路樹診断マニュアルについて】

Q24.　東京都の街路樹診断等マニュアルが改定されたことをご存知ですか。

68 件の回答

Q25.　所属する組織の活動エリアでは、東京都のマニュアルを活用していますか。

68 件の回答

Q26.　東京都のマニュアル・カルテを活用・転用していない方にお伺いします。その理由がわかればお聞かせください。

5 件の回答

1	役所のマニュアルが更新されていないため
2	発注者独自書式の場合もある
3	地方自治体では、国総研のマニュアル・カルテを活用している。
4	九州支部のカルテを使用しています。
5	無記入

Q27.　所属する組織の活動エリアの自治体が独自のマニュアル等を有している場合は、自治体名とそのマニュアルの名前を教えてください。

7 件の回答

1	埼玉県　H30街路樹診断マニュアル
2	福岡市、北九州市　マニュアル名は無いが仕様書として提示される
3	国土交通省九州地方整備局「九州版　街路樹診断リスクマネジメントの手引き」
4	なし。
5	国土交通省九州地方整備局「九州版　街路樹リスクマネジメントの手引き（平成19年3月）」
6	足立区の「保存樹育成」（民間所有の保存樹木への維持管理のサポート事業）において、独自様式の「樹木外観 簡易 診断票」（カルテ）を使用している。マニュアルはなし。この診断票は退職された区職員の樹木医が東京都樹木医会で使われていたカルテをアレンジして作られたものだと聞いている。
7	無記入

Q28. 改定された東京都のマニュアルについて課題やご意見をお聞かせください。

23 件の回答

1	まず使いこなしてみている。フォローアップ診断が本格化しだす来年あたりに課題が出てくるかも知れません。
2	フォローアップ診断の過去データ収集と部位写真が何処かを見極めるのに時間を要します。
3	未だそこまで使い込んでいない
4	福岡県では地下部に石が多く根株診断を行うことが困難です。東京では問題ないかと思います。また街路樹の根の保護についての記載が多いところが良いと思います。
5	以前より診断名称変更等が改訂されて良くなったと思います。
6	フォローアップ診断で前回診断と同じ被害部位の確認、写真撮影が困難な場合がある。
7	まだ十分に活用出来ていない部分があり、理解できていない。
8	予算規模が弱い地方においては、金銭的負担が大きいかもしれない
9	前回より使いやすい。
10	フォローアップ診断において、以前の診断結果のデータの入手がスムーズにいかない場合がある。
11	地方自治体でこのマニュアルをベースに運営するのは経済的に困難。
12	樹木医が行う初期診断はなくさない方がよいと思います。
13	東京都が進んでいます。他自治体は参考にされるかと思いますが、街路樹診断士という縛りはないです。樹木医の名前が多いですが、専門性を高めるため、他自治体にも拡げて欲しい。
15	以前より改善されたとは思いますが、より定量的な判断基準が必要と感じる項目があります。例えば、根元の揺らぎ、傾きなどです。
16	特にありません。
17	H26年度版とわずかに違いがあるが、よく理解できていない。
18	フォローアップ診断は、現状では外観診断よりも手間がかかる発注内容になっている。フォローアップの目的としては、被害が進捗しているのか改善しているのかを迅速に判定することも重要であるため改善が必要と感じる。
19	見ておきます
20	レジストグラフ解析についてもう少し記載があっても良いと思います
21	使いやすい内容だと思います。
22	以前よりも全般にわかりやすくなったと思います
23	特にありません

14	（樹木点検） ・写真撮影枚数が多い。①樹木番号プレート、②全景、③樹冠部、④主要部、⑤根元部、⑥（あれば）異常部と、5枚以上の写真撮影が必要で、外観診断よりも枚数が多いため、全景と被害部のみで良いように思う。 ・写真撮影枚数に対して、カルテ形式の様式では写真貼り付け箇所が狭い。3枚貼り付けるとすれば①～③までしか貼り付けられず、肝心の異常部は別紙を作成しなければならない。H26年度マニュアルのように、全景写真と被害部写真2枚という風に、カルテ形式に貼り付ける写真を指定した方が良いように思う。 ・様式が表形式とカルテ形式の2種類あり、どちらか一方に統一した方が分かりやすい。カルテ形式は作成に手間がかかるほか、数量が多い場合には発注者側も1枚1枚の確認に手間がかかるため、不要か、指定のある際にのみ作成という形にしてほしい。 ・Ⅴ．太枝枯れ・折れについて、「枯枝の太さや長さ・本数を特記事項に記載する。」とあるが、太さや長さの測定は外観診断の範疇と感じる。枯枝の程度（大・中・小、多数など）で良いのではないか。 ・剪定痕の樹皮欠損から腐朽が進行してい場合は、「樹皮欠損」と「腐朽」の両方にチェックでいいのか？ ・樹皮枯死と樹皮欠損が混在していることが多いが、その場合はどう標記すればいいのか。 （外観診断） ・(ア)～(ウ)開口空洞、樹皮枯死・欠損・腐朽の判定には、被害が進行しているか否かが基準として用いられているが、現場では進行していない、もしくは回復傾向にあると明確に区別できるものではない。また、被害が進行しているか否かの判断は診断者によるもので、基準が曖昧である。できれば客観的に判別可能な判定基準とした方が、判定のばらつきが生じにくいと感じる。 ・(エ)枯枝には「大枝の枯枝及びぶら下がり枝・折れ枝の有無を判定する」とあるが、判定基準の表には「小」「中・大」の枯枝とあり、大枝の枯枝について確認するのか、小～大枝の枯枝全てについて確認するのかが分からない。診断者によって枯枝すべてを含めている場合と、大枝のみを対象としている場合がある。この場合の「枯枝」の対象範囲を明確にしてほしい。あくまで骨格となる大枝の枯れのみとするならば、小枝の枯れが多数ある場合には「枯枝」欄には反映せず、「樹勢」や「所見」欄に記載する旨、マニュアルに明記した方が良い。 ・(キ)木槌打診について、開口空洞のある場合は当然ながら打診音異常があるため、打診音異常「あり」にチェックしないと聞いたが、これもマニュアルには記載がないため、異常音として該当するケース、除外されるケースを具体的に記載してほしい。 ・次回診断時期の基準について、以前はB2→1年後であったため、「30％程度の腐朽空洞率」を3年後とすることに違和感を感じる。次回判定時期の決定は診断者によるため、他にも具体的な例を示してほしい。 ・双幹の場合は、分岐部より上部も幹とするのか、分かれたところからは枝になるか？ （フォローアップ診断） ・前回被害部を探すのにとても時間を要する。季節等が違うと特に分かりにくい。大枝の枯枝等は処置済の場合が多く、根元、幹の被害部のみの再確認にしてほしい。 ・処置についても処置済なのか治癒なのか見つけられていないだけなのか、判断に迷う場合がある。重要なのは今回必要な処置であり、前回チェックが実施されているか否かはあまり重要でないように思うため、確認不要ではないか。 ・前回診断結果を転記するのにかなりの時間を要する。t/R率はR3年マニュアルからの記載であるため、再計算しなければならない。 ・以上より、外観診断以上に時間がかかる場合があり、効率的ではない。併せて歩掛の見直しをして欲しい。 ・前回被害部写真の後追いがメインになり、新たな被害を示すのが後回しになる。例えば前回被害部を3枚撮影後、新たな被害を撮影した場合、フォローアップカルテには過去写真のみしか載らないことがある。写真の重みづけをする必要があると思うが、前回被害部のうち１枚を削除して新たな１枚を追加した場合、削除した被害部が無くなったように見えてしまう。前回との比較写真なのか、今回は無くなった被害なのか、新しい被害なのか、一見して分かりやすい写真の配置にした方が良いように思う。裏面に写真を9枚載せるようにして、上段3枚は前回被害部、中段3枚は前回被害部の今回の状況、下段3枚は新たな被害とするなど。 ・次回診断時期の基準について、外観診断と同様。

Q29. 街路樹等の樹木診断において、今後解明すべき課題があればお聞かせください。

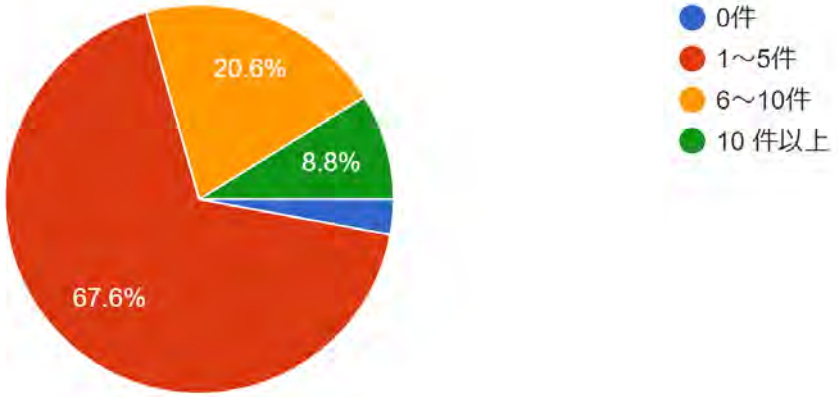
23 件の回答

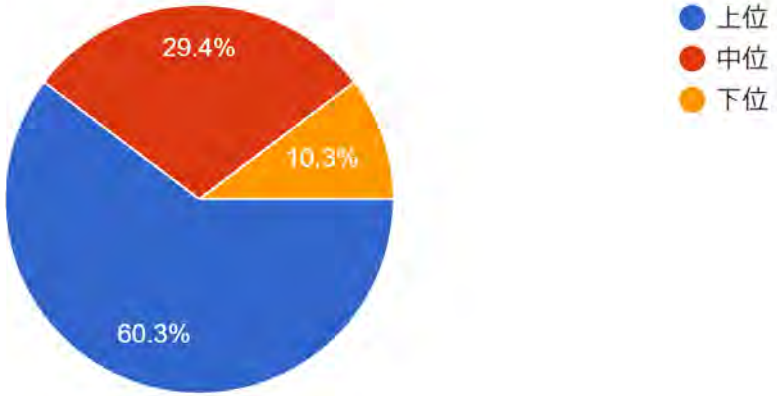
1	根株腐朽の効率的、効果的な診断方法の確立。
2	立枯れ（組織的、病理的）に及ぼす周辺工事の影響程度。
3	レジのグラフの解析・解釈の方法
4	根系保護に関して、歩道内に展開している根の中で切ってよい根の太さを協会として示すことが必要です。
5	診断目的が変わればカルテやマニュアルも変わる
6	安価で非破壊検査が可能になること。
7	腐朽率だけで計れない事があるので、その辺りの仕組み（？）を深く知りたい。
8	打音異常の評価
9	TPZの重要性についてより多くの情報がほしい。
10	剪定等の作業による、腐朽の進行、から倒木のメカニズム？
11	入札における参加条件の中で、診断協会員が優遇されていくような仕組み作り
12	CRZの国内確立、樹木更新基準の明確化、診断データの蓄積→危険路線や樹種の予知技術の確立。
13	必要土壌範囲の基準。
14	倒木リスクの見える化（危険木の範囲の明確化）
15	機器診断を簡単に出来ないでしょうか？
16	・根株診断のエビデンス ・大径木のｔ/R率
17	診断者による診断結果の差異（個別項目、判定等）が生じてしまう点が気になります。
18	特にありません。
19	特になし
20	打診音異常の大・小、範囲の広い・狭い、の判断が個人の経験に委ねられるところが大きく、樹木医ごとに判断がずれやすいように感じる。樹種や大きさ、樹形によっても変わるため難しいが、打診音異常にも何かしら数値的な基準のようなものがあると良いと感じる。
21	新しい移植診断マニュアル作成の働きかけ。公共建築の回収や、水道工事、歩道切り下げにより移植診断が必要になっている事案が多くなっている。新マニュアルや機器診断の評価に合わせた移植のための診断基準（指針）が必要と感じる。
22	特になし
23	技術委員会として取り組んでおります。

【他団体への加盟状況について】

Q30.　当協会以外の団体への加盟状況についてお聞かせください。

68 件の回答



Q31.　当協会以外の団体へ加盟されている方にお...団体の中で当協会の位置づけをお聞かせください。

68 件の回答